

## 横須賀市の前立腺がん検診の 最新情報です

横須賀市では2001年からPSA単独検診としての前立腺がん検診が医師会、行政の主導で対策型検診としてスタートしました。開始から5年目の集計、解析では検診で発見された前立腺がんは検診以外で発見された前立腺がんよりも早期がんが多いことが判明したので、その結果を報告しています<sup>(1)</sup>。また10年目の解析では発見された前立腺がんの患者さんのうち検診を一度でも受けた患者さんは受けていない患者さんよりも生存率が高いことが証明されましたので、こちらも報告しました<sup>(2)</sup>。さらに、今回15年目の研究成果が前立腺関連の国際的な医学雑誌である『Prostate』に掲載されました<sup>(3)</sup>。

これはこれまでの研究の集大成ともいうべきもので横須賀市で発見された前立腺がん患者3094名の集計解析結果で検診で発見されたがんとそれ以外のがんの比較対象研究です。

結果は横須賀市の検診以外で発見される前立腺がんは検診で発見される癌と比較して生命予後が不良であるというものでした。ただし、75歳以上の高齢者では検診による死亡率減少効果は認められず、今後の横須賀市の前立腺がん検診では年齢の上限を設ける必要があるようです。

前立腺がんは比較のおとなしいがんで転移がない場合はほぼ10年生存率100%です。近

年はがんが生検（病理診断）で発見されても治療をせずPSA（前立腺特異抗原）の採血やMRIで経過をみてゆく監視療法が行われていますが病理学的悪性度の高い、いわゆる『顔つきの悪いがん』では手術や放射線療法が勧められています。ケースバイケースですので治療をどうするかは専門家である泌尿器科医の意見を聞いてから決めてください。

- (1) 野口純男、里見佳昭、酒井直樹、等 泌尿紀要 54:197, 2008
- (2) Sakai N, Taguri M, Kobayashi K, et al Int.J.Urol.22:747,2015
- (3) Tabei T, Taguri M, Sakai N et al. Prostate 80:824,2020

